

スポーツ振興くじ助成事業



さまざまな運動のステージを提供する 西京極総合運動公園

平成 24 年度

西京極総合運動公園利用実態調査

報 告 書

平成 24 年 11 月

財団法人京都市体育協会

西京極総合運動公園（以下「本公園」）は、隣接する京都市体育館、市民スポーツ会館とともに、京都市におけるスポーツの拠点施設として長い歴史を歩み、数多くのドラマを生み、広く市民に親しまれ、利用されている公園です。

本公園は、京都市唯一の総合運動公園として、各種競技大会の開催に限らず、スポーツを愛好する市民利用が広範囲に見られるとともに、公園の園路・広場では散策及びウォーキング、ジョギングなど、日常的な身近利用も盛んに行われています。本公園は各種競技が繰り広げられる運動施設とその周囲の園路・広場で構成されており、運動施設以外は 24 時間、自由な利用に供されています。

平成 24 年度の調査は、スポーツ利用の盛んな秋季と夏季の利用実態を把握するために、独立行政法人日本スポーツ振興センターが実施する「スポーツ振興くじ」の助成を受けて行ったものです。

今年度の調査においても、通過・通行以外に、園路を周回する散策・ウォーキング及びジョギング・ランニングの利用の比率が非常に高く、年間を通して「さまざまな運動のステージを提供する」と言えるほど、積極的な利用が行われていることが分かりました。近年のランニング愛好家の増加、健康運動への高齢者層の積極的な取り組みなど、生涯スポーツの姿を定量的に把握することが出来ました。この調査結果が、今後の管理・運営に活かされるとともに、スポーツ振興策の検討のための基礎資料として広く使われることを願うものです。

平成 24 年 11 月
財団法人 京都市体育協会

目 次

1 . 調査の目的	1
2 . 調査内容	1
2 - 1 利用実態調査	1
2 - 2 利用者数調査（出入口調査）	1
3 . 調査実施日	2
4 . 調査結果	3
4 - 1 利用実態調査から	3
4 - 2 出入口調査から	7
5 . 年間を通しての公園利用の特徴	16
6 . まとめ	27

1. 調査の目的

西京極総合運動公園及び隣接するハンナリーズアリーナ（京都市体育館）・市民スポーツ会館は、スポーツ競技や観戦の場として多くの市民等に利用されており、また、近隣住民の散策やウォーキング、ジョギングなど身近な健康運動の場となっていることが昨年度調査で明らかになりました。今回の調査は昨年度調査の成果をふまえ、夏期及びスポーツ利用の多い秋季の利用実態を調査するとともに、各公園出入口において来園者の数量を調査し、年間利用者数の推計を行うことを目的としています。

2. 調査内容

2 - 1 利用実態調査

公園の3箇所（図2-1）に調査員を配置し、1時間毎の通過人数を属性別、利用形態別にカウントしました。

調査実施日

平成24年8月5日（休日）8日（平日）

平成24年9月19日（平日）22日（休日）

調査時間

午前6時～午後6時（12時間）

調査対象の属性

- ・男女
- ・年齢：学齢前、小学生、中高校生、大人、高齢者

利用形態

- ・ジョギング、散歩・ウォーキング、自転車、その他



図2-1 利用実態調査地点位置図

2 - 2 利用者数調査（出入口調査）

各入口に調査員を配置し、図2-2に示す14箇所における1時間毎の出入り者数をカウントしました。

調査実施日

平成24年9月19日（平日）

9月22日（休日）

調査時間

午前6時～午後6時（12時間）

調査対象属性

- ・男女
- ・年齢（学齢前、小学生、中学、高校生、大人、高齢者）

利用形態（入退園者数）



図2-2 利用者数（出入口）調査地点位置図

3. 調査実施日

調査は、スポーツ利用の盛んな夏期及び秋期の、8月5日(休日)、8日(平日)及び秋期の9月19日(平日)、22日(休日)に行いました。

夏期調査実施日の天候は概ね晴れ、両日共に日最高気温が30℃を越える真夏日でした。秋期調査実施日についても天候は晴れまたは曇りで調査時間内の降雨はありませんでした。

調査実施日の競技場等の利用状況は表3-1の通りでした。

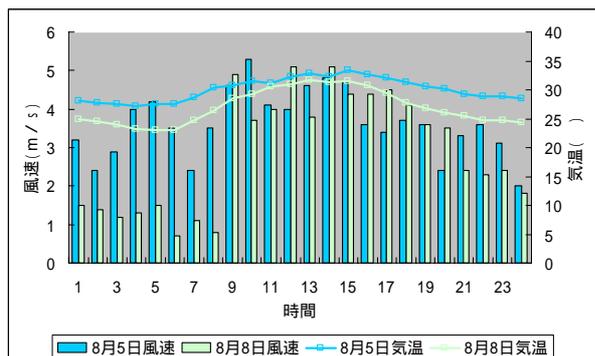


図 3-1 夏期調査日の気温と風速

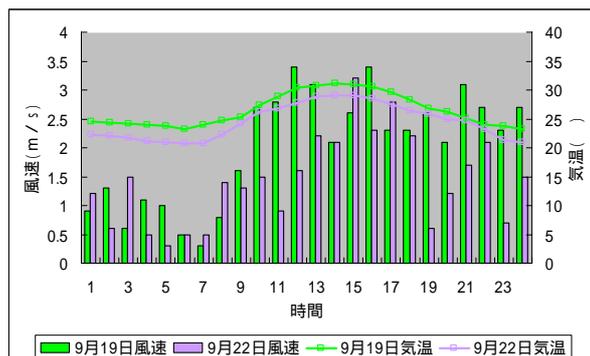


図 3-2 秋期調査日の気温と風速

表 3-1 調査実施日の競技場等利用状況

競技場等	8月5日(日)	8月8日(水)	9月19日(水)	9月22日(土:祝日)
ハンナリーズアリーナ	京都市スポーツ少年団ミニバスケットボール選手権大会 9:00~17:00	京都市小学生部活動全市交流会 8:00~17:00		京都府民総体バスケットボール大会 9:00~21:00
陸上競技場兼球技場	ジャパンフットボールリーグ J2 京都サガ VS ガイナーレ鳥取 19:00 キックオフ	京都 FA カップ 京都サッカー選手権大会準決勝 13:00~21:00		京都陸上競技会記録会 9:00~17:00
陸上補助競技場	京都陸協ジュニア研修会 9:00~12:00 全日本女子サッカー大会 13:00~17:00	〔一般開放日〕	〔一般開放日〕	京都陸上競技会記録会 9:00~17:00
わかさスタジアム 京都	京都リトルシニア・ジュニア野球大会 9:00~17:00		日本選手権大会近畿地区最終予選 9:00~17:00	関西六大学野球秋期リーグ選 9:00~17:00

4. 調査結果

4 - 1 利用実態調査から

【時間別利用者数】

休日は平日の約2倍の利用者数、休日の競技観戦利用者が寄与
 平日は時間による差が少なく、1日を通して均等な利用が見られる
 休日は競技スポーツの開始、終了時間によるピークが発生する

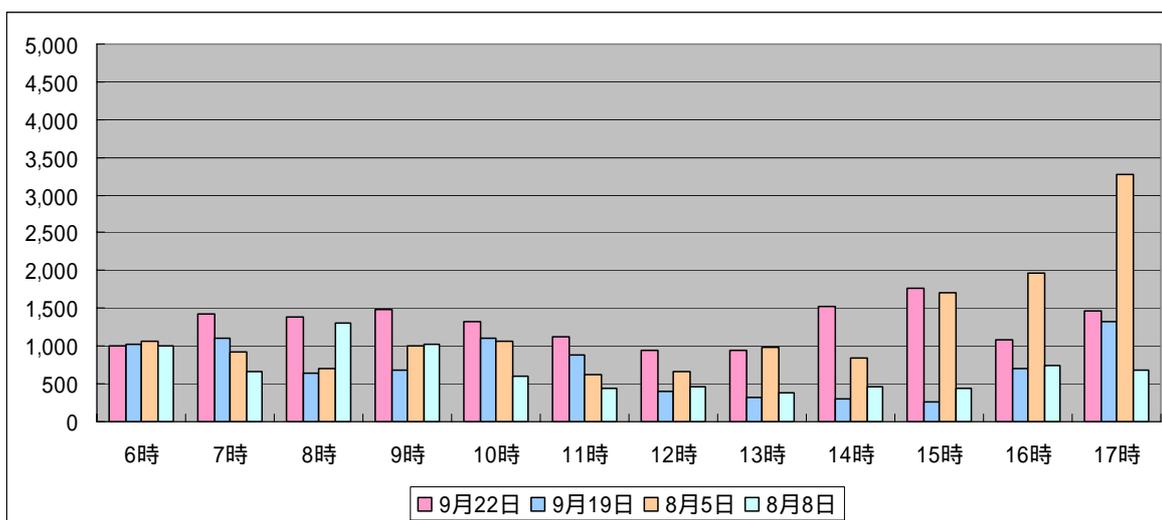


図 4-1 時間別利用者数

【公園内地点別利用者数】

平日は公園全体で、休日はスポーツ観戦のため、人の流れはメイン園路の通行が多くなる

平日、休日ともに No.3 (野球場南) 地点は利用者数が少ない。園内を周回するジョギングと散歩・ウォーキング利用者が主と考えられます。

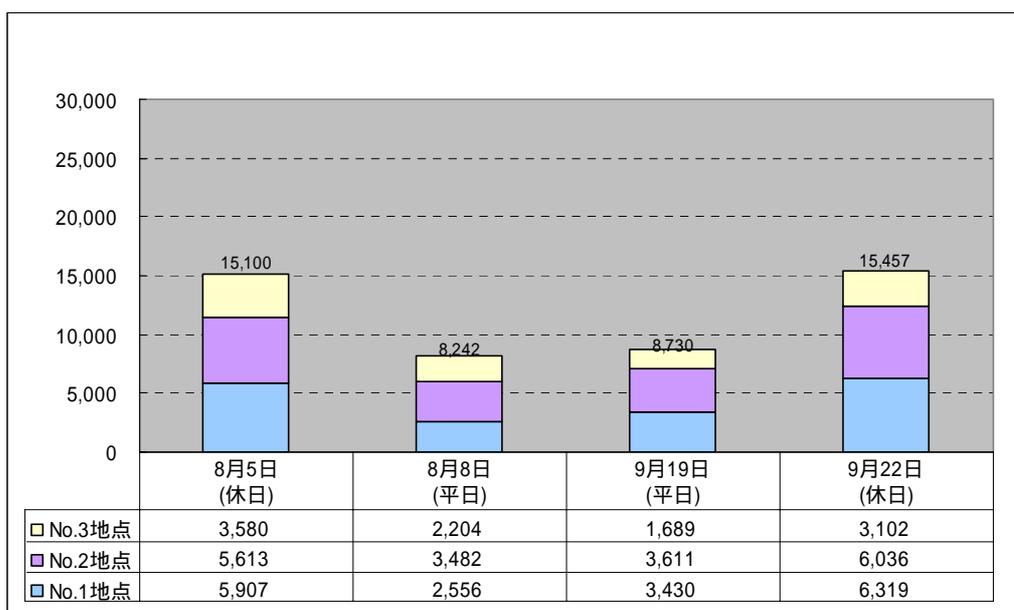


図 4-2 地点別利用者数

【公園の利用形態】

～園路・広場はどのように利用されているのか～

利用の半数以上が「その他」で園路を目的地に向かって通行する人たち

- ・通過交通と各施設に向かう人たちの利用によります。
- ・平日は高齢者の利用者数が多く見られます。

その他利用者の傾向は

- ・8月5日（休日）の「その他」の割合が高いのは、スポーツ観戦（J2 公式戦開催）の影響を受けています。
- ・9月22日（休日）の利用者の比率はほぼ平日と同じですが、全体の数字を押し上げているのは各施設の利用が満遍なくあることと、休日であることによります。

公園の利用形態で次に多いのは散歩・ウォーキング、及びジョギング

- ・8月5日のジョギング利用者の比率が低いのはJ2 公式戦開催による公園の混雑の影響によるものです。

自転車利用が10%前後みられるが、次のような傾向が見られる

- ・大人の利用が最も多く、利用者数のピークが正午前後にみられる。
- ・平日は高齢者の利用者数が多い。

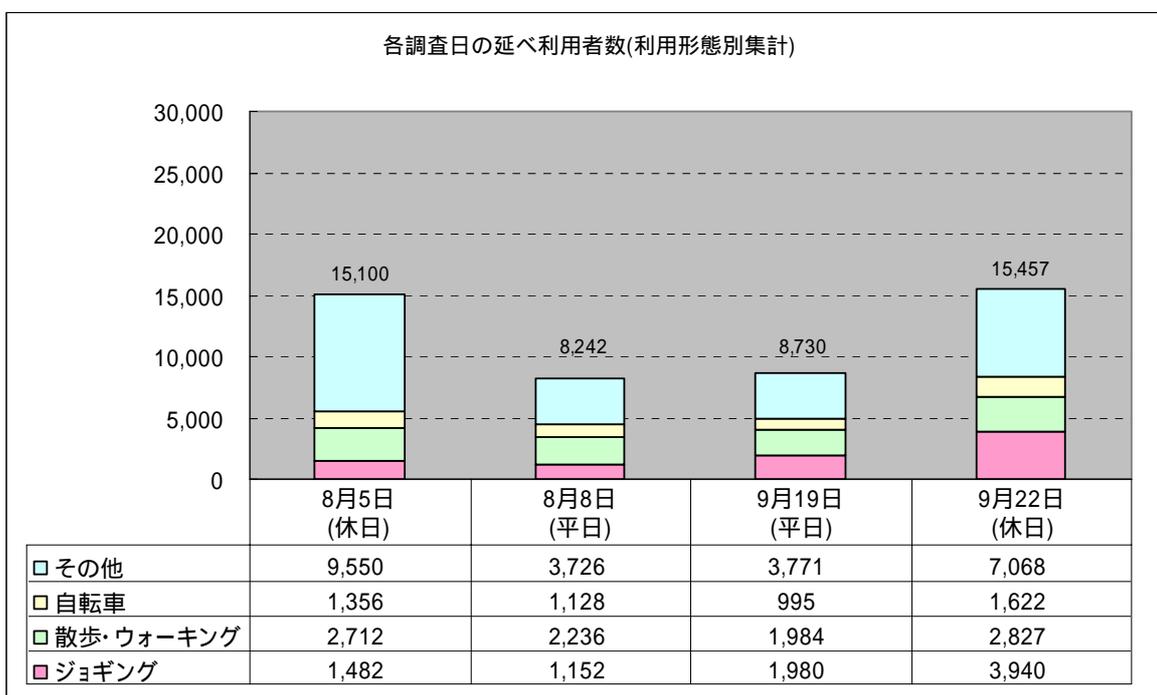


図 4-3 利用形態別利用者数

ジョギング利用者の傾向は（全体集計）

- ・ 11時～13時の利用が少なく、早朝と夕方の利用者が多く見られます。
- ・ 7時～9時は、世代に関係なく利用者が増えます。
- ・ 陸上競技会等開催日は「ジョギング」利用が増えます。

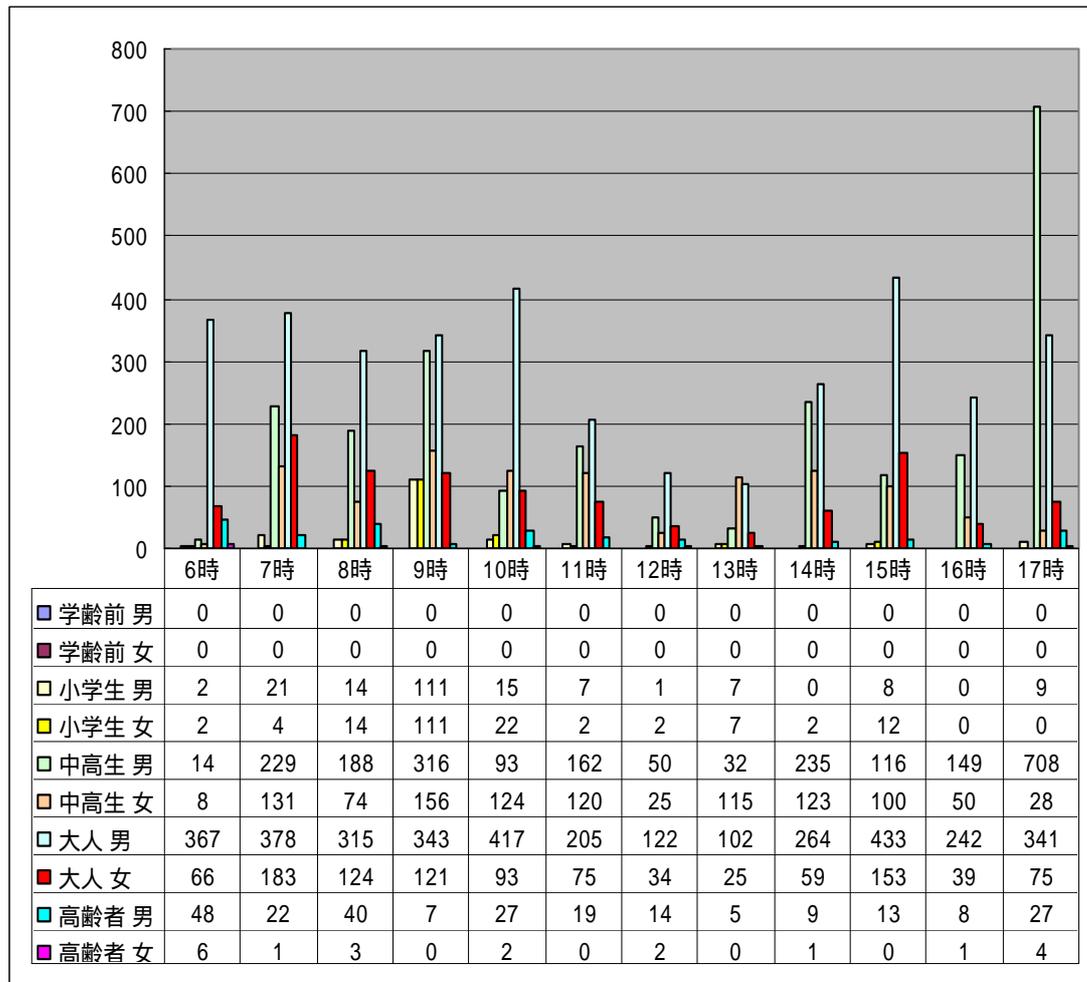


図 4-4 ジョギング利用者の世代別時間別推移

散歩・ウォーキング利用者の傾向は

- ・ 平日、休日に関わりなく安定した多くの利用があります。
- ・ 休日は平日に比べ、1日を通して平均的に利用者数が多くなります。
- ・ 大人の利用者数は早朝と夕方に多く、昼間はやや減少しています。
- ・ 高齢者は早朝から正午頃までの利用者数が多く見られます。
- ・ 11時～14時の昼間時間帯の利用が少なくなります。

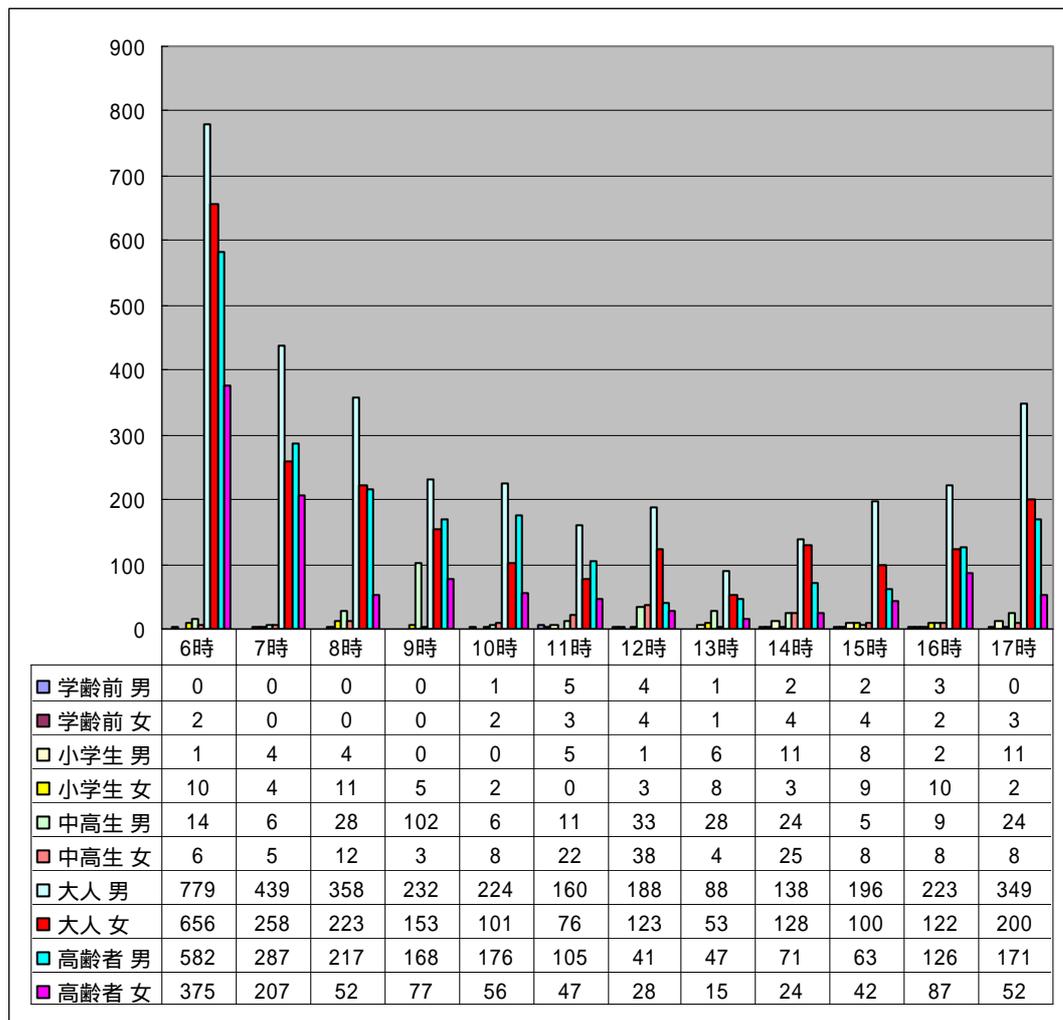


図 4-5 散歩・ウォーキング利用者の世代別時間別推移

4 - 2 出入口調査から

本公園の出入口は大小 14 箇所あり、主要なものは、阪急電鉄西京極駅に接続する出入口（P01）、五条通に面した公園の正面出入口（P03、P04）、京都市スポーツ会館横の主に業務用出入口となっている天神川ゲート（P02）及び、野球場南にあるプール施設のアクアリーナとの連絡口（P13）です。

出入口調査は公園の入退場者数を時間別にカウントすることにより、公園の利用者数、公園の平均滞在時間を把握することを目的としています。

【公園の利用者数】

休日は 7 千人、平日は 4 千人程度の入場者が見られました

入場者、退場者ともに、休日は平日の 1.8 倍程度の人数となっています

休日は P01 の利用が最も多く、平日では P03 の利用が最も多い

- ・ 休日は競技観戦等の利用が増えることから公共交通機関（阪急電車）の利用が多くなります。

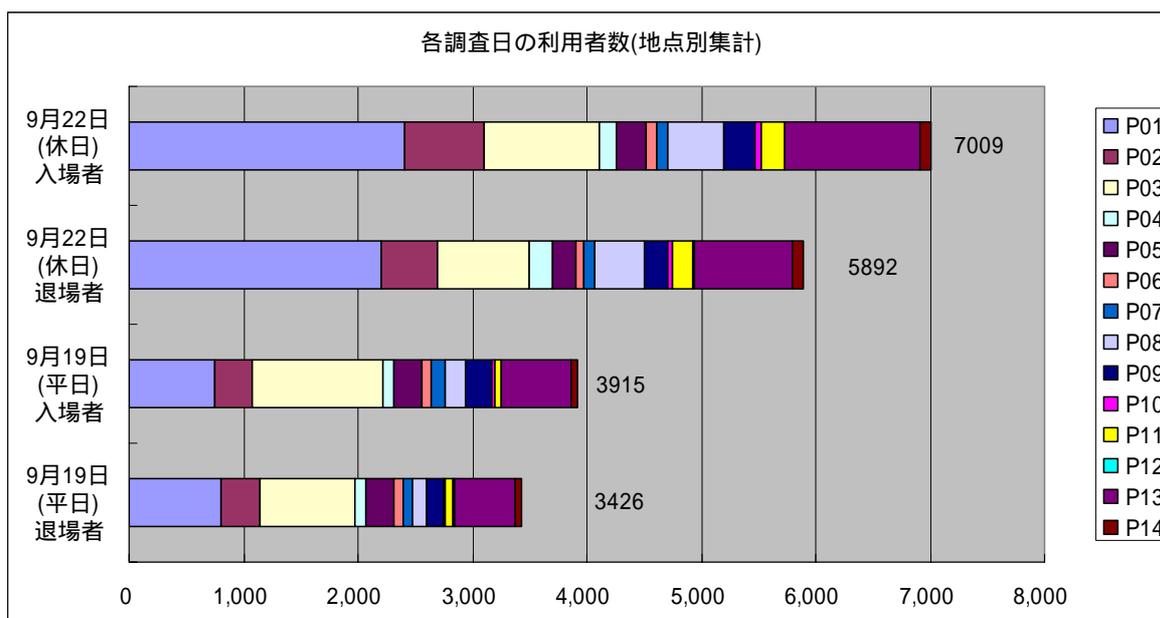


図 4-6 各調査日の利用者数

【出入口の利用状況】

平日はどこ出入口が多く利用されているか

- ・ P03 の利用が最も多く、次いで P01、P13 の順となっています。
- ・ どの出入口においても入場者数と退場者数がほぼ同じ割合になっています。

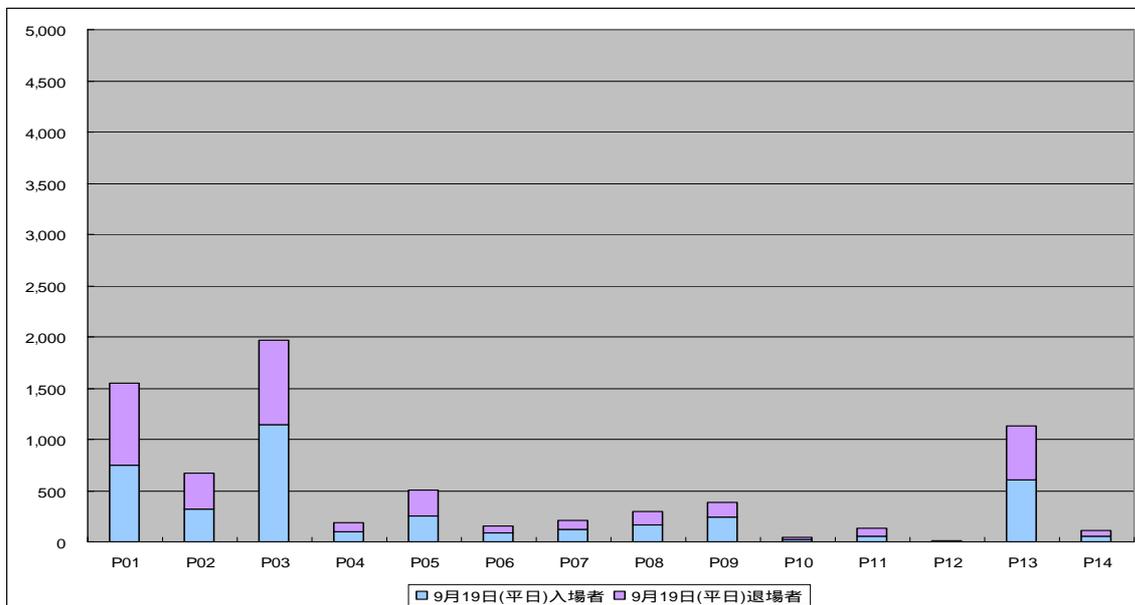


図 4-7 平日(9月19日)の地点別利用者数

休日はどこ出入口が多く利用されているか

- ・ P01 の利用が最も多く、次いで P13、P03 地点の順となっています。
- ・ どの出入口においても入場者数と退場者数がほぼ同じ割合になっています。

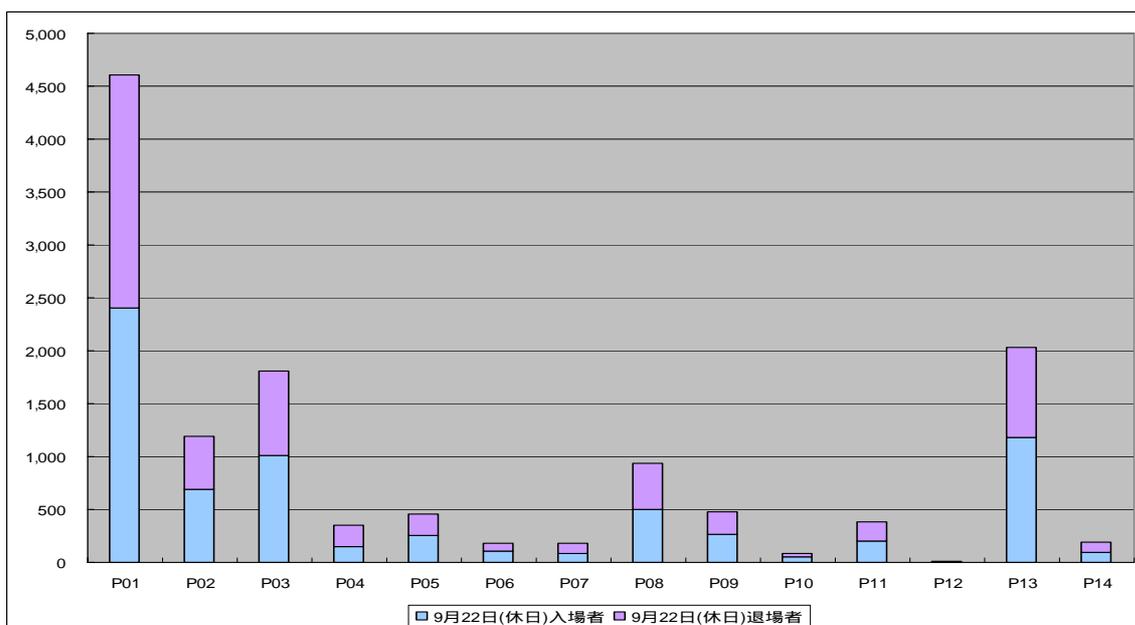


図 4-8 休日(9月22日)の地点別利用者数

【時間別に見た入退場者数】

平日の時間帯別入退場者数は

- ・入場者は6～10時に多く、また16時にもピークが見られます。
- ・退場者は7時、11時、17時で各々ピークが見られます。
- ・平日は、入場者と退場者のピーク時間の開きが顕著ではないため、比較的短時間の滞在が多いと推測されます。

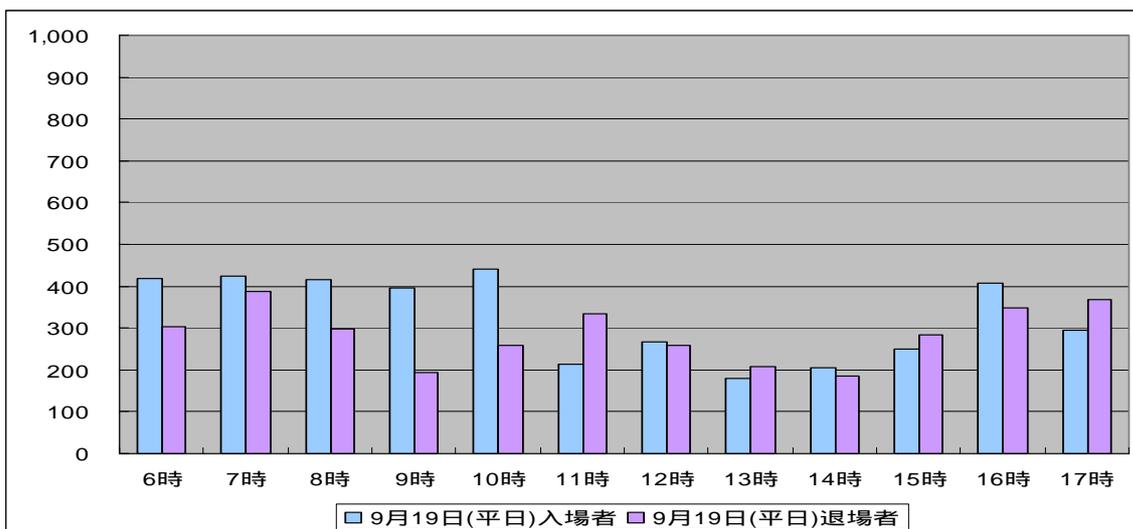


図 4-9 平日(9月19日)の時間帯別入退場者数

休日の時間帯別入退場者数は

- ・入場者は午前中に多く、7時と9時にピークが見られます。
- ・入場者は14～15時にいったん減少するが17時に再びピークが見られます。
- ・退場者は15～17時にピークが見られます。
- ・休日は、入場者と退場者のピーク時間の開きが顕著で、比較的長時間の滞在が多いと推測されます。

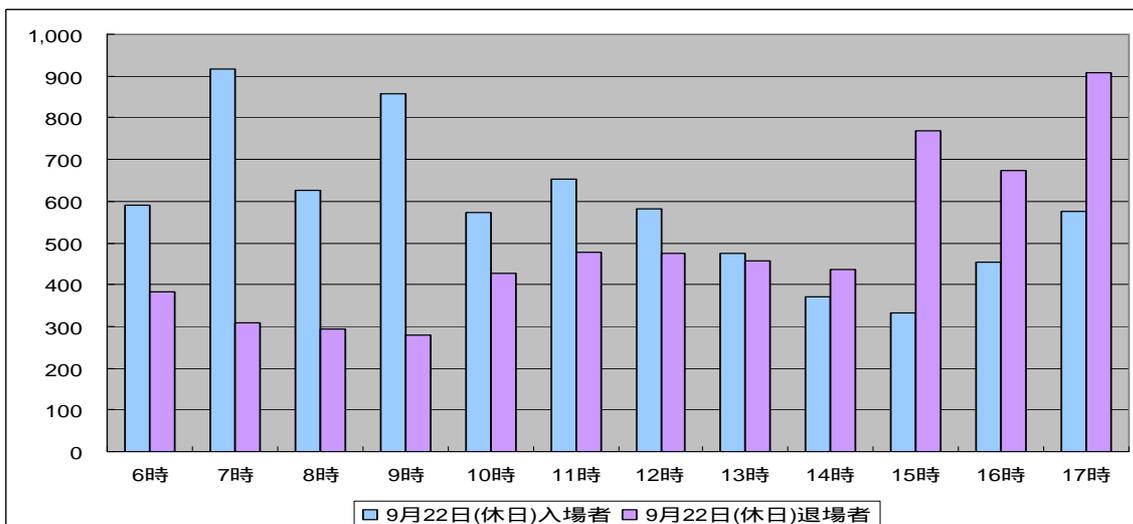


図 4-10 休日(9月22日)の時間帯別入退場者数

【世代別に見た入退場者数】

平日の世代別に見た出入口の利用状況は

- ・入場者・退場者別にみた世代別の出入口利用状況に大きな差は見られません。
- ・学齢前、小学生、中高生の入退場は、P03 が大半を占めています。歩行者系の出入口で通学等の経路となっています。(P13 で一定の割合があることから推察されます。)
- ・大人は、P03 とP01 からの入退場が多くなっています。
- ・高齢者は、P13、P01、P03 からの入退場が多く、日常生活圏のなかで散歩等のコースになっていると推察されます。

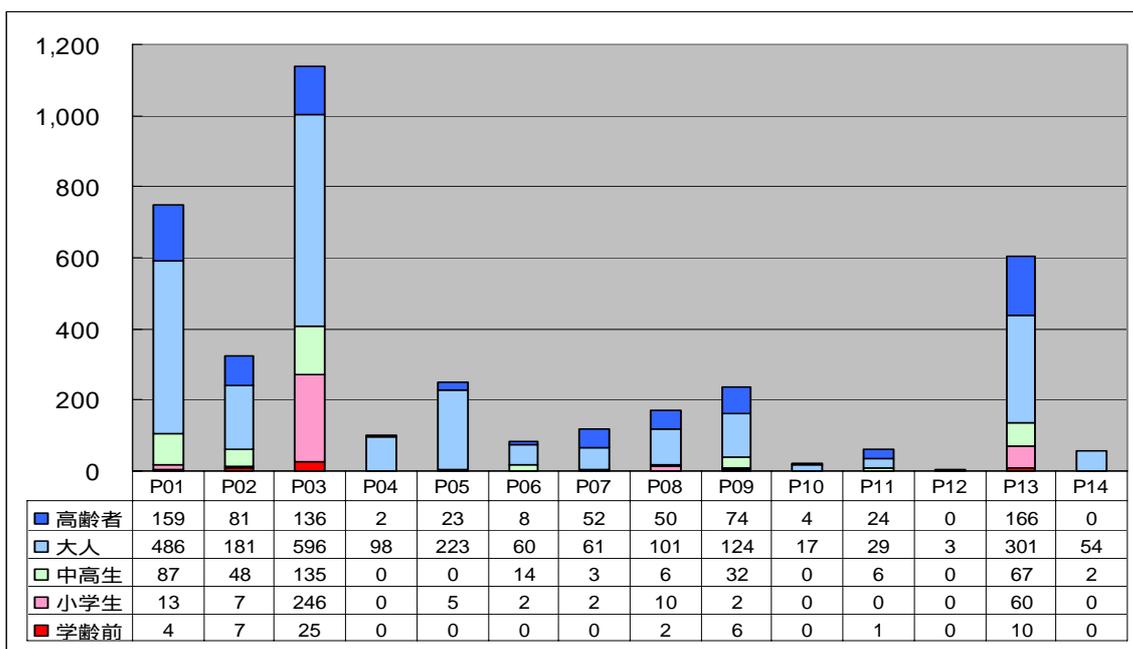


図 4-11 世代別に見た平日(9月19日)地点別入場者数

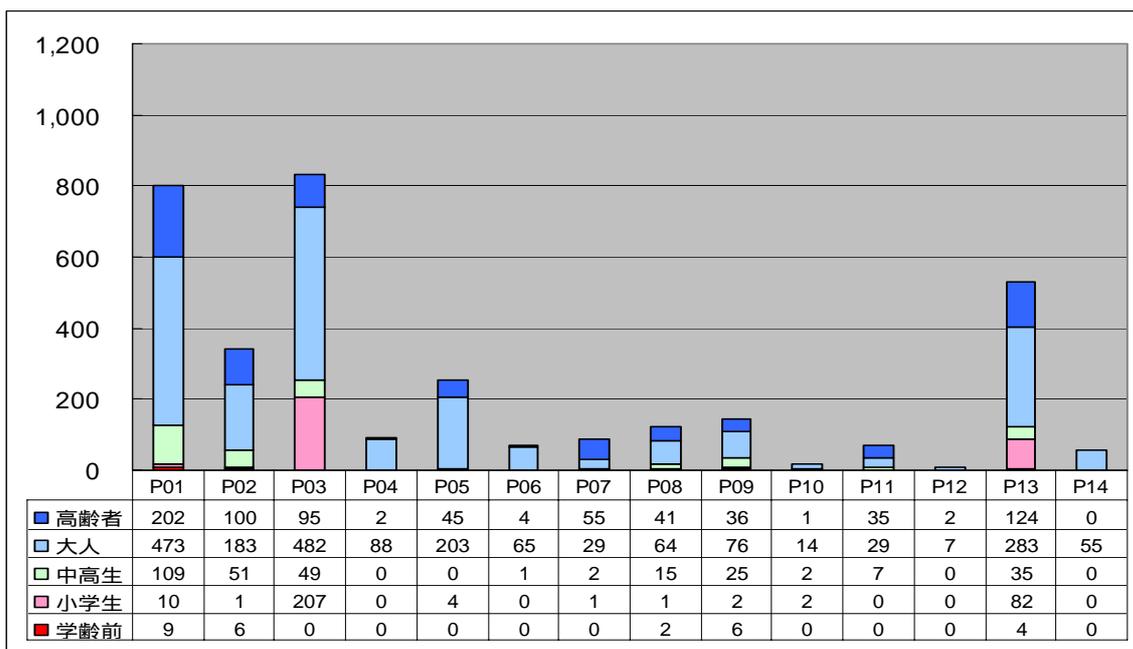


図 4-12 世代別に見た平日(9月19日)地点別退場者数

休日の世代別に見た出入口の利用状況は

- ・ 入場者・退場者別にみた世代別の出入口利用状況に大きな差は見られません。
- ・ 小学生を除く、全ての世代が P01 からの入場が多くなっています。
- ・ 中高生の P01 からの入場が多くなっています。

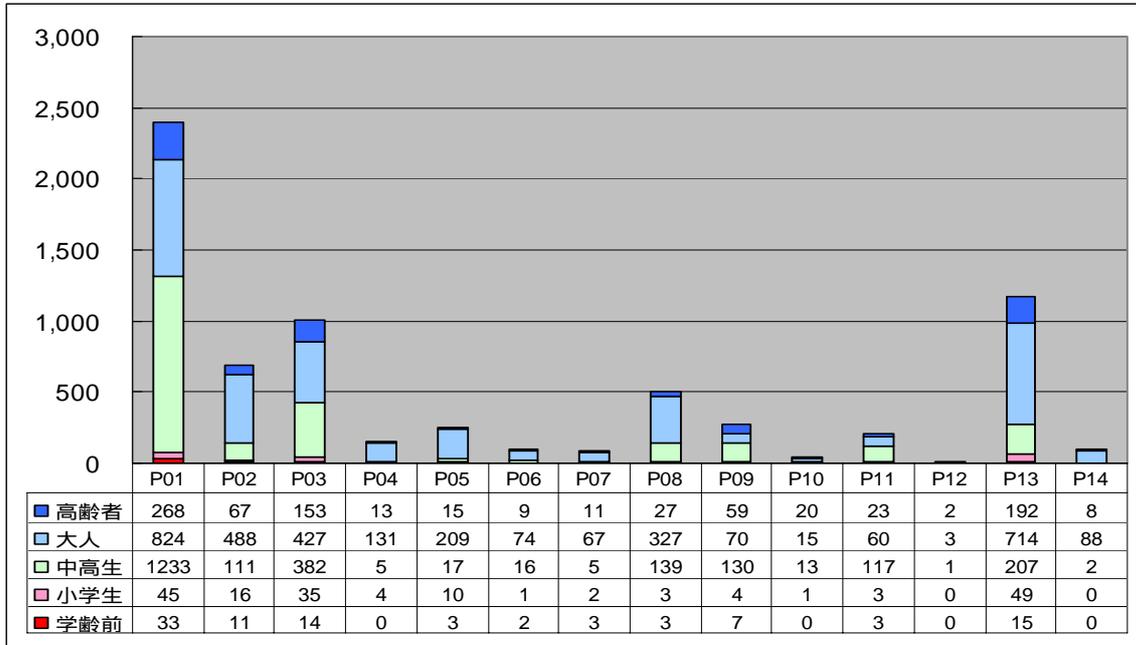


図 4-13 世代別に見た休日(9月22日)地点別入場者数

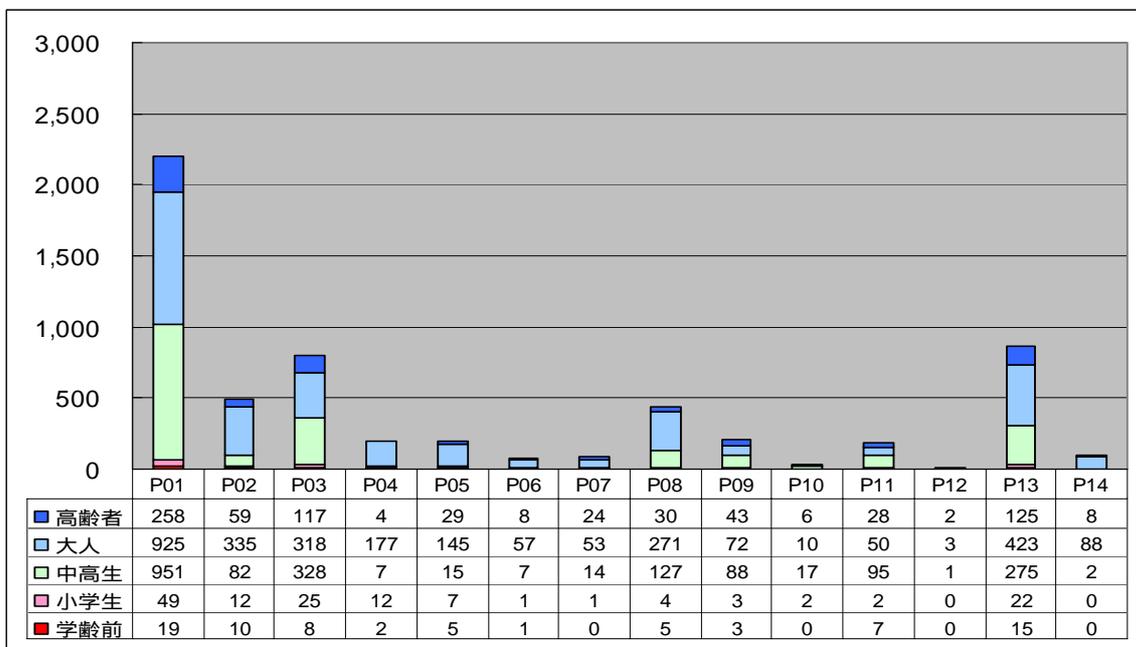


図 4-14 世代別に見た休日(9月22日)地点別退場者数

【公園内滞在者数の推移（平日・休日）】

平日の公園内滞在者数は

- ・公園内滞在者数は、6時から徐々に増え始め、10時にピークを迎えます。
- ・10時以降は、500人程度で、17時まで横ばいとなります。
- ・17時の時点で減少の傾向が見られます。

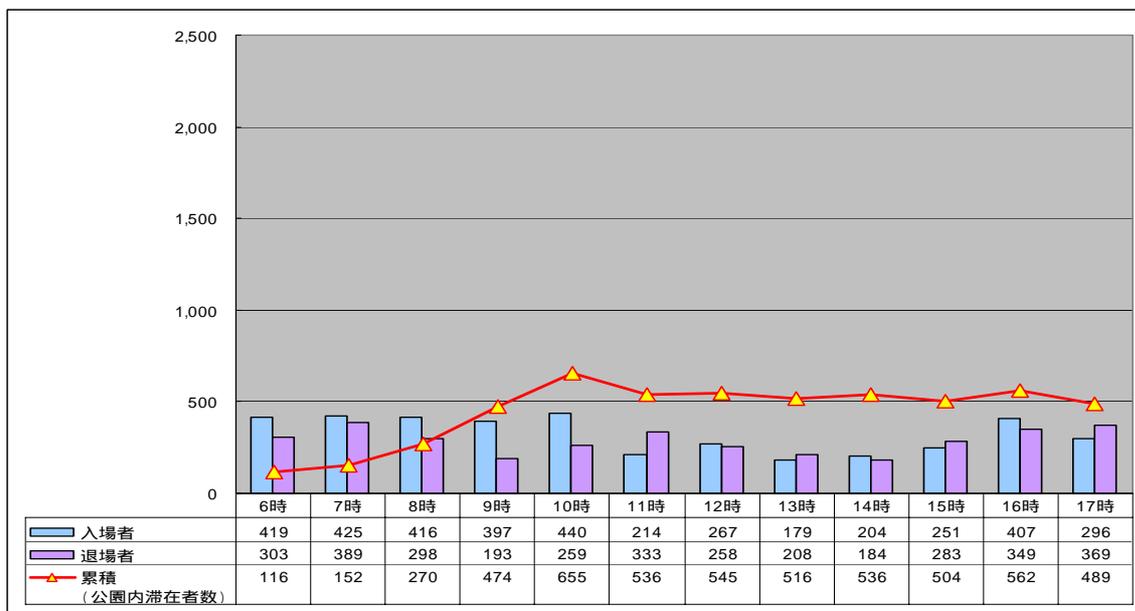


図 4-15 公園内滞在者数の推移（平日）

休日の公園内滞在者数は

- ・公園内滞在者数は、6時から徐々に増え始め、13時にピークを迎えます。
- ・14時以降は、徐々に減少します。
- ・6時から9時までの増加率が著しくなっています。

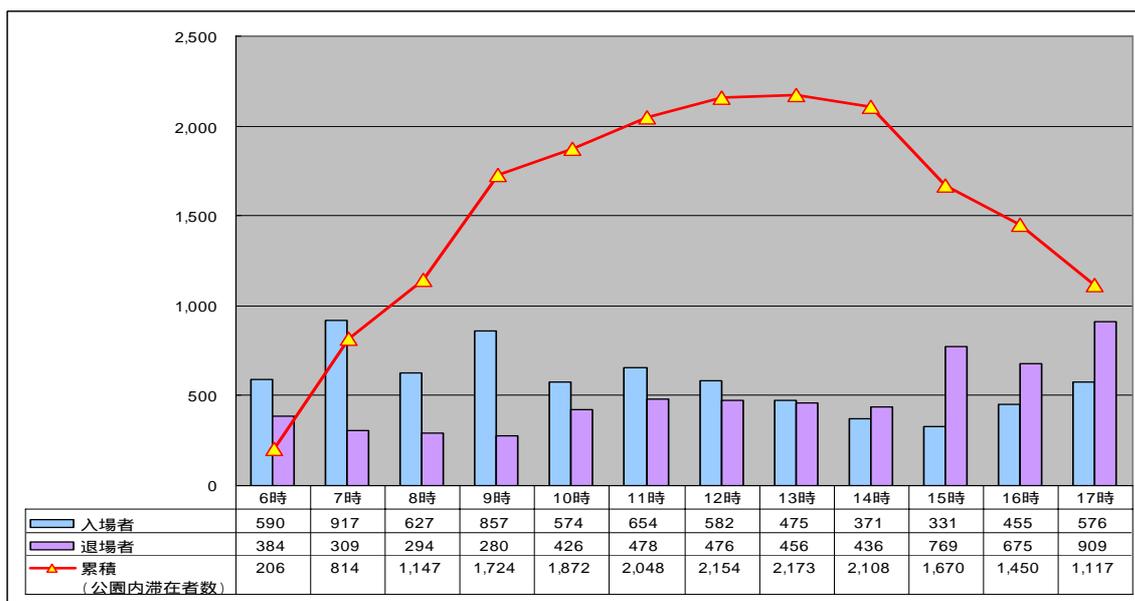


図 4-16 公園内滞在者数の推移（休日）

【公園利用者数の推計】

利用者数調査（出入口調査）結果から、時間別の利用者数をグラフ化すると図 4-17、18 となります。

平日の推定入場者数は

9月19日（平日）のグラフに近似曲線を追加すると、 $y = -15.262x + 425.45$ という数式が得られました。

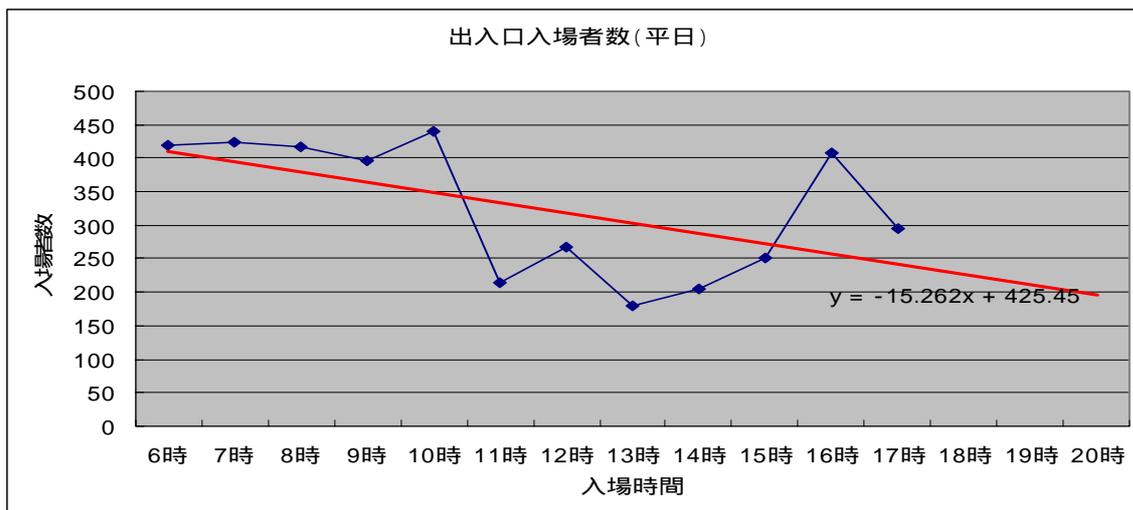


図 4-17 利用者数調査（平日）結果による近似曲線グラフ

近似曲線グラフ（図 4-17）をもとに調査を行っていない 18 時～21 時までの利用者数について、近似曲線を使用して計算すると、表 4-1 の結果が得られました。

表 4-1 平日調査の入場者数と近似曲線による計算値

9月19日（平日）に実施した利用実態調査ならびに利用者数調査の結果により、

出入口入場者数（近似曲線による計算値）
÷ 利用実態調査 3 地点通過人数 =

$$4,550 \div 8,730 = 0.5211$$

となり利用実態調査でカウントした 3 地点合計数に 0.52 を乗じた数を、平日の推定入場者数とします。

利用者数調査結果による入場者		近似曲線により算出した入場者 $y = -15.262x + 425.45$	
入場時間	人数	入場時間	人数
6時	419	6時	410
7時	425	7時	395
8時	416	8時	380
9時	397	9時	364
10時	440	10時	349
11時	214	11時	334
12時	267	12時	319
13時	179	13時	303
14時	204	14時	288
15時	251	15時	273
16時	407	16時	258
17時	296	17時	242
18時		18時	227
19時		19時	212
20時		20時	197
合計	3,915	合計	4,550

休日の推定入場者数は

9月22日(休日)のグラフに近似曲線を追加すると、 $y = -32.108x + 792.79$ という数式が得られました。

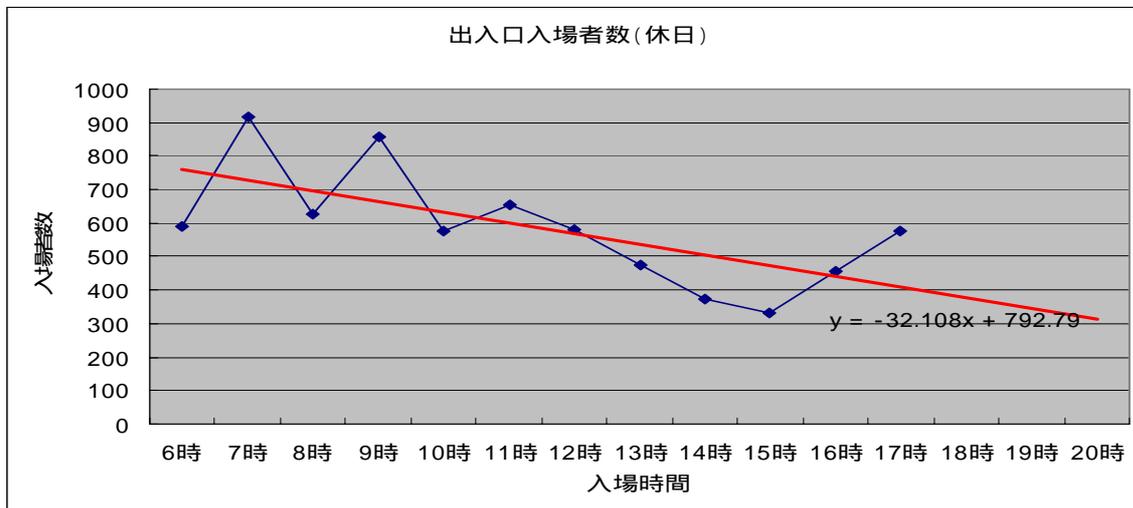


図 4-18 利用者数調査(休日)結果による近似曲線グラフ

近似曲線グラフ(図 4-18)をもとに調査を行っていない 18 時~21 時までの利用者数について、近似曲線を使用して計算すると、表 4-2 の結果が得られました。

表 4-2 休日調査の入場者数と近似曲線による計算値

9月22日(休日)に実施した利用実態調査ならびに利用者数調査の結果により、
 出入口入場者数(近似曲線による計算値)
 \div 利用実態調査3地点通過人数 =
 $8,039 \div 15,457 = 0.5200$
 となり利用実態調査でカウントした3地点合計数に0.52を乗じた数を休日の推定入場者数とします。

利用者数調査結果による入場者		近似曲線により算出した入場者 $y = -32.108x + 792.79$	
入場時間	人数	入場時間	人数
6時	590	6時	761
7時	917	7時	729
8時	627	8時	696
9時	857	9時	664
10時	574	10時	632
11時	654	11時	600
12時	582	12時	568
13時	475	13時	536
14時	371	14時	504
15時	331	15時	472
16時	455	16時	440
17時	576	17時	407
18時		18時	375
19時		19時	343
20時		20時	311
合計	7,009	合計	8,039

年間利用者数の推計

年間利用者数の推計は、平日と休日の利用者数に大きな差があることが明らかになったことから、平成23年度の平日と土・日・休日をもとに計算すると表4-3の結果が得られました。

表 4-3 年間利用者数推計計算書

季節	期間	平日	利用実態調査 カウント数	補正係数	推定入園者数	土・日・休日	利用実態調査 カウント数	補正係数	推定入園者数
春期	3～5月	60	9,663	0.52	301,486	32	24,289	0.52	404,169
夏期	6～8月	65	8,242	0.52	278,580	27	15,100	0.52	212,004
秋期	9～11月	60	8,730	0.52	272,376	31	15,457	0.52	249,167
冬期	12～2月	62	8,397	0.52	270,719	29	22,334	0.52	336,797
					1,123,160				1,202,137
平成23年度 西京極総合運動公園年間来園者数(推定)									2,325,297

表 4-3 の計算結果から、西京極総合運動公園の北エリア（阪急電鉄京都線から北側）では年間232万人の利用者があると推計されます。

5. 年間を通しての公園利用の特徴

平成 24 年度調査は夏期及びスポーツ需要の高い秋期の特徴を明らかにしましたが、一年を通してどのような利用がされているのか、季節毎の差異やイベントの有無により、一般的な日常利用がどのように影響を受けているのか、昨年度調査結果とともに考察を行いました。

平日・休日別の利用者数、時間別に見た利用者数

- ・春期(3月)と冬期(11月)は寒さの影響から昼間の利用が多く、夏期(8月)と秋期(日中の気温が 30 を超えていた)は暑さの厳しい昼間の利用は少なく、早朝と夕方の利用が多くなっています。
- ・3月25日の12時と15時、8月5日の17時に見られるピークはJリーグ公式戦開催の影響を受けています。

表 5-1 調査日のJリーグ公式戦概要

調査日	試合時間	入場者数
2011年3月25日	13:00～15:00	4,795人
2012年8月5日	17:00～19:00	5,041人

- ・平日は季節による時間毎の利用者数の変動が少なく、休日は時間毎の利用者数の変動が大きい。これは休日の利用は試合観戦、大会参加者の比率が高く、試合時間等に大きく作用されていることを表しています。
- ・休日の利用者数の多寡は、Jリーグの開催の有無、または運動施設が全て稼働しているか否かによって大きく左右されます。

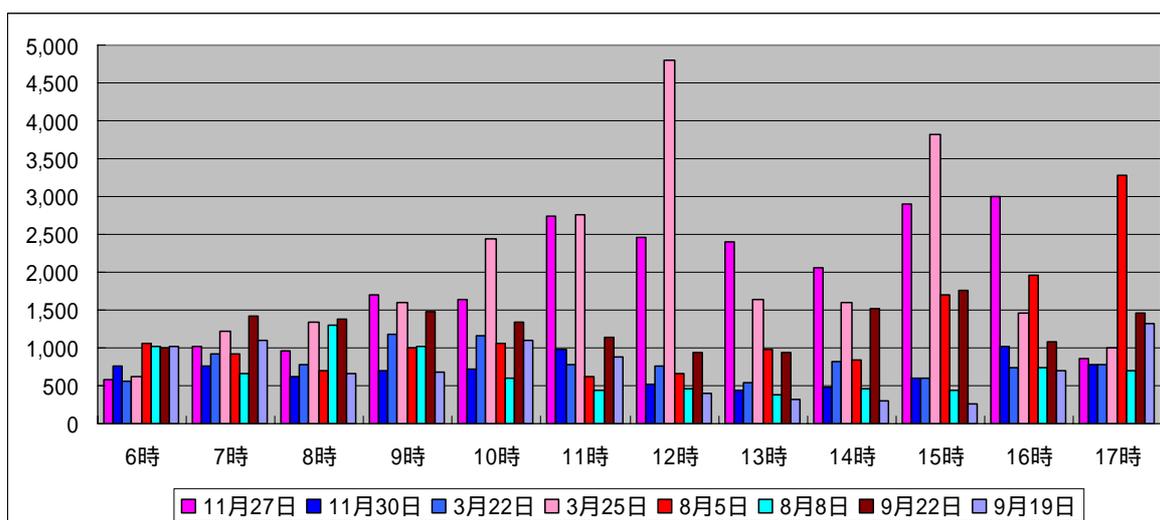


図 5-1 各調査日の時間別に見た利用者数の推移

公園内地点別利用者数

- ・平日は地点毎の差が少なくなっています。公園の日常利用が、周回する園路を利用する「散歩・ウォーキング」及び「ジョギング」の割合が大きいことから裏付けられます。
- ・休日は No.1 地点（陸上競技場ピクチャーウインドウ前）及び No.2 地点（野球場横）の利用が大きく伸びます。これは公園の主動線としての役割を表しています。
- ・平日利用は季節による変動が少なく 8,000～9,000 人程度の安定した利用が見られます。

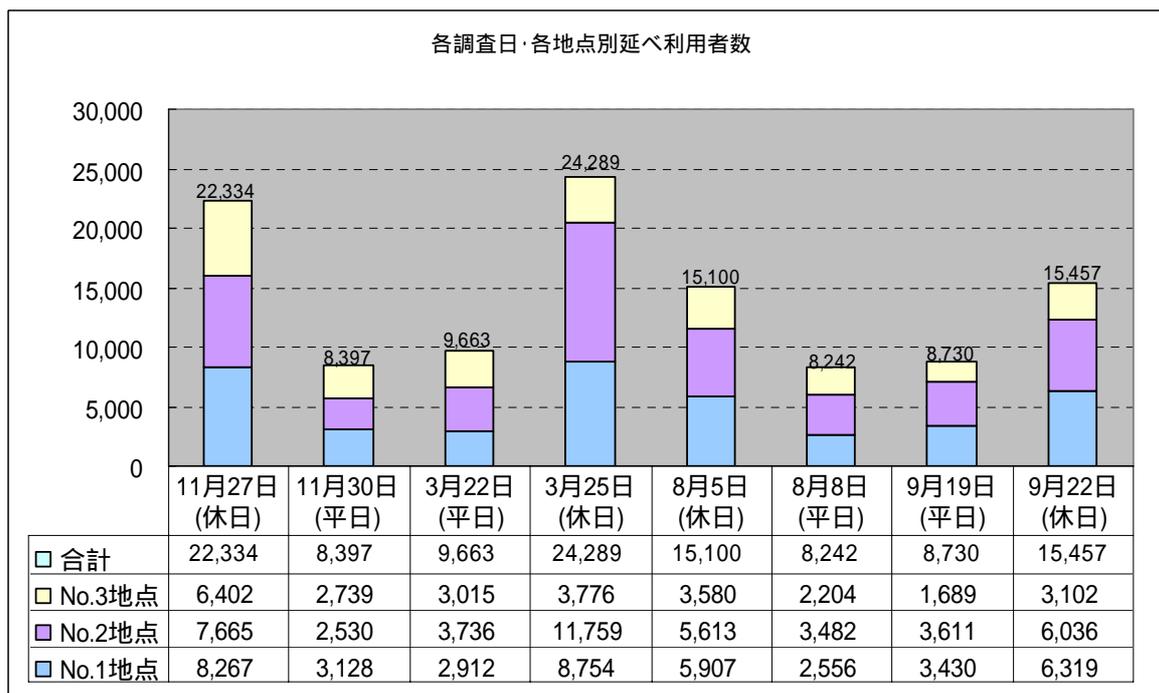


図 5-2 各調査日の地点別利用者数

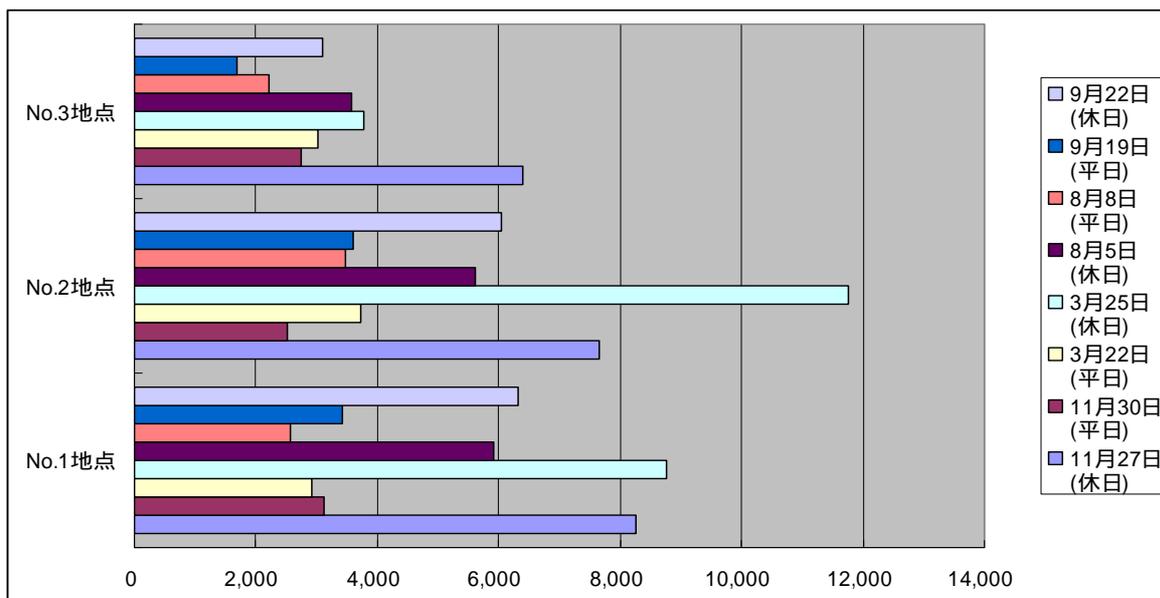


図 5-3 各調査日の地点別利用者数

時間別利用者数

- ・平日は午前中と夕方の利用が多く、12時～15時の間は利用者が減少する傾向が見られます。
- ・春期（3月）と冬期（11月）は寒さの影響から昼間の利用が多く、夏期（8月）と秋期（9月）は暑さの厳しい昼間の利用が少なくなっています。
- ・休日は競技イベントの影響を受けバラツキが大きく、平日同様、気温の影響を受けている傾向が見られます。

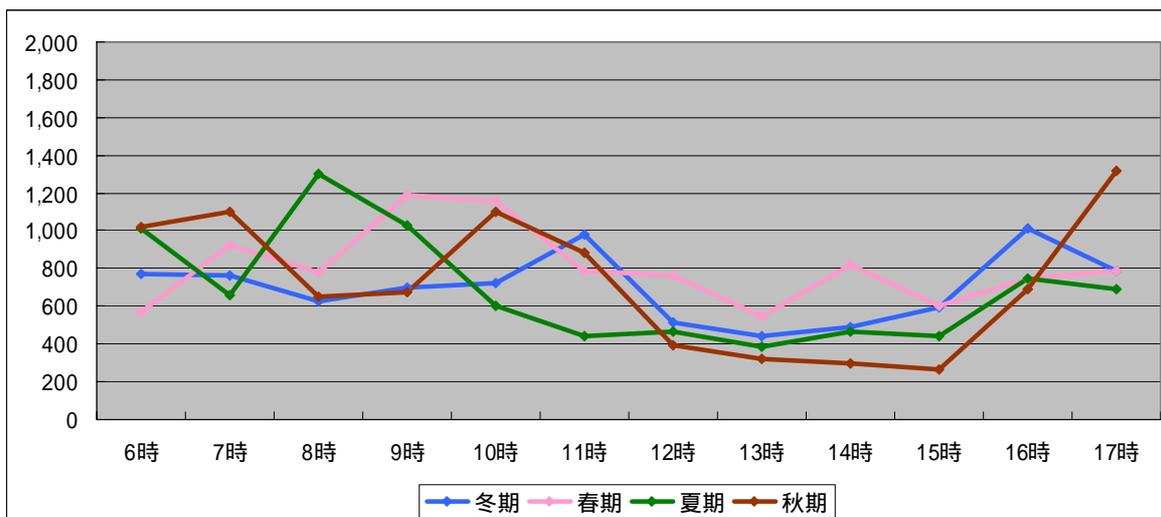


図 5-4 季節別・時間別にみた利用者数（平日）

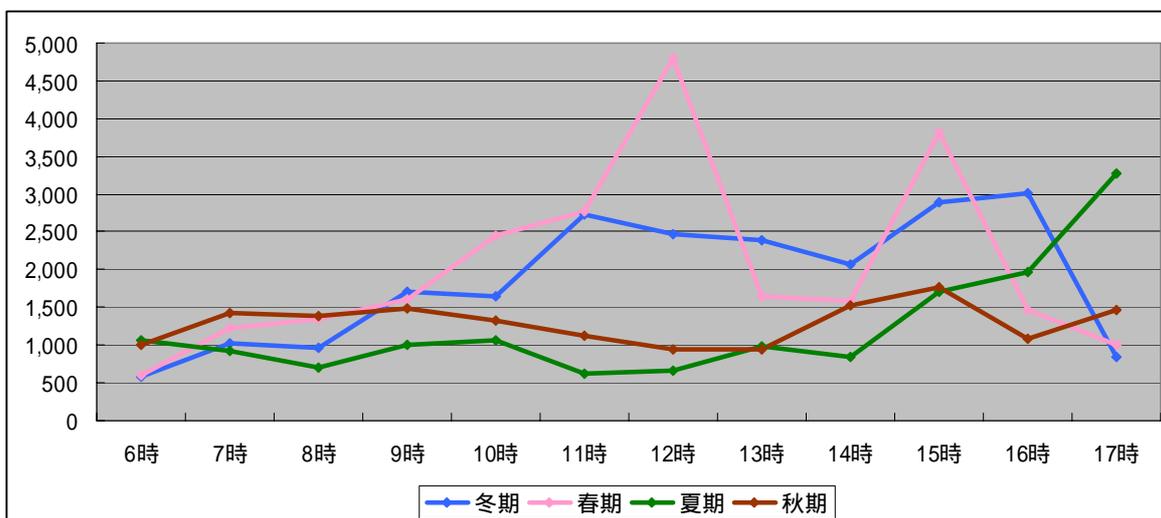


図 5-5 季節別・時間別にみた利用者数（休日）

利用形態別に見た各調査日の延べ利用者数

- ・平日は「散歩・ウォーキング」利用者の占める割合が高く、休日は「その他」利用者の割合が高くなります。休日の「その他」利用の増加数の大半は、通過交通に加えて観戦、大会参加によるものです。
- ・「ジョギング」の割合が11月27日（休日）及び9月22日（休日）において、「散歩・ウォーキング」を上回っているのは、いずれも当日、陸上競技場兼球技場、補助競技場において陸上競技記録会が開催されていたためです。このことから園路が選手達のアップ場としての役割を果たしていることがわかります。
- ・「ジョギング」の割合が3月25日（休日）、8月5日（休日）において低いのはJリーグ公式戦開催により、No.2 地点付近が様々なイベント等に使用されるため、ランナーが、その混雑を避けているためと考えられます。

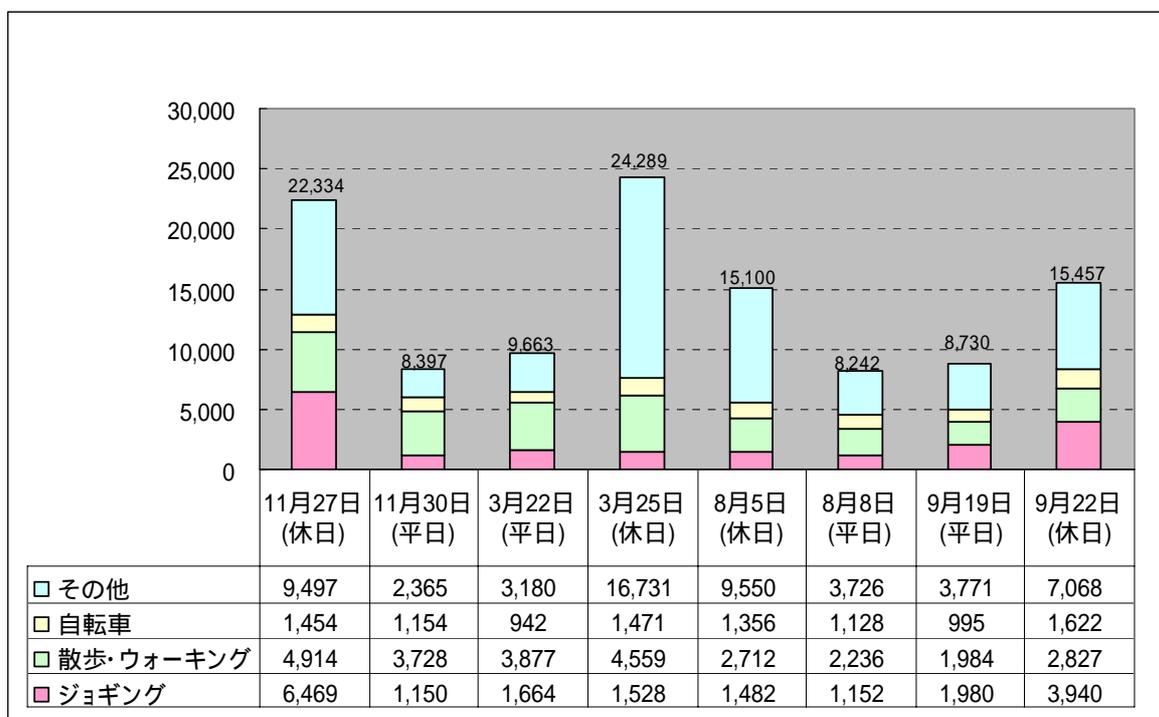


図 5-6 利用形態別の利用者数

利用形態別に見た場合、本公園では「散歩・ウォーキング」及び「ジョギング」の割合が平日で約5割、休日においても3割～5割と高く見られます。また、陸上競技場兼球技場を擁する総合運動公園としての特徴は「ジョギング」の利用状況を見ることによって明らかになります。

世代別に見たジョギング利用者の特徴

- ・世代別に「ジョギング」利用者を見ると、中高生と大人の利用が大半で、小学生、高齢者の利用はごく少数となっています。学齢前の利用者はありません。
- ・高齢者は日常利用が全てで、利用時間は早朝（6時）、昼前（10～12時）、夕方（16～17時）の割合が高くなっています。
- ・小学生の昼間の利用は、授業での団体利用などによるものです。

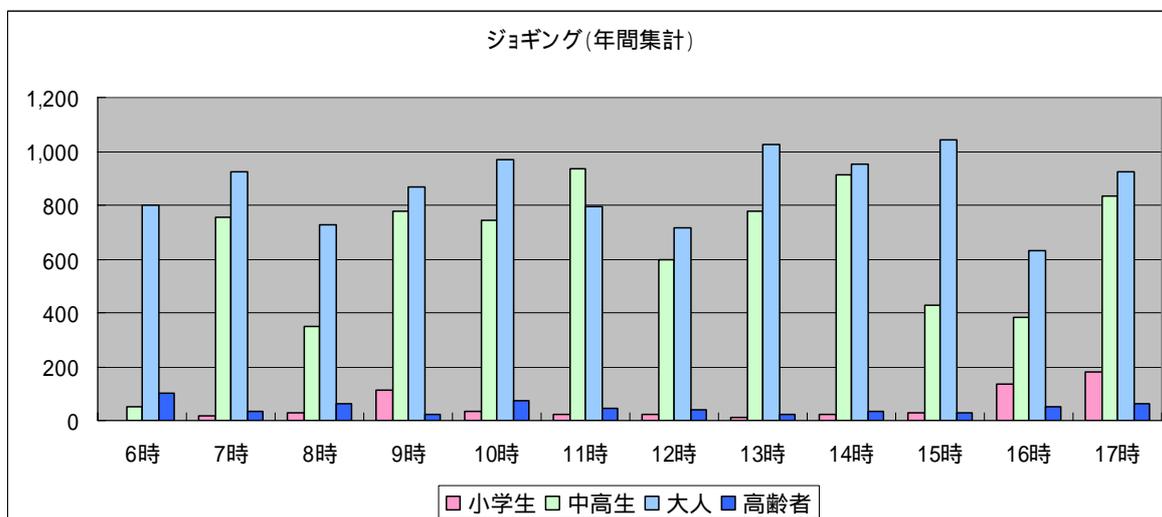


図 5-7 ジョギング利用者の世代別時間別利用者数

利用者数の多い中高生と大人に視点をあて、調査日別に整理すると、

- ・ 中高生の利用者は利用時間帯のバラツキが大きく、休日利用が多く見られます。これは陸上競技記録会のアップによる利用が多かったことを反映しています。
- ・ 平日の17時頃に見られるピークは学校単位のクラブ活動の利用者数を反映しています。

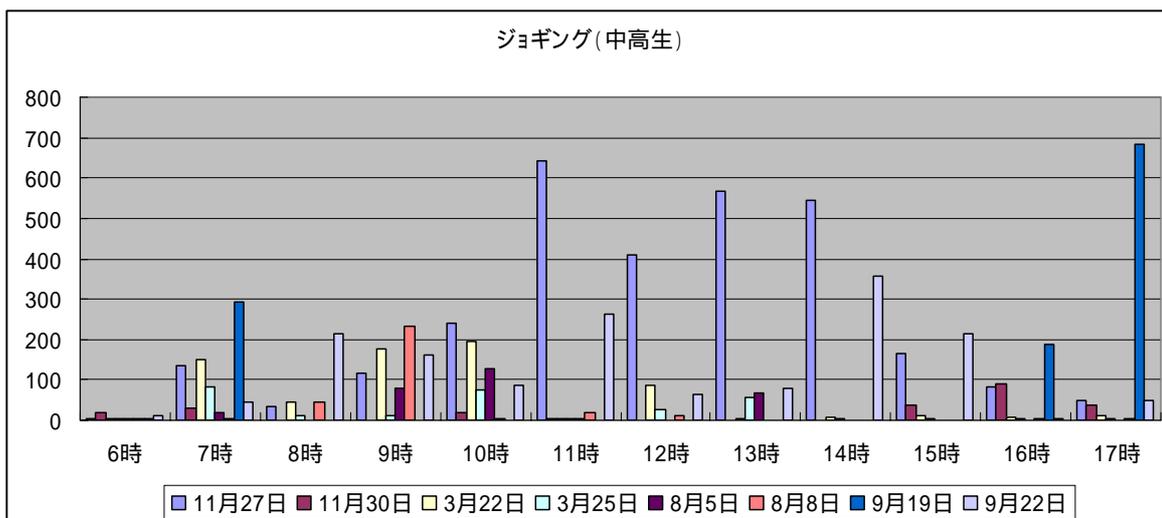


図 5-8 ジョギング利用者（中高生）の調査日別・時間別利用者数

- ・ 大人の利用で、早朝及び夕方に関一定の数量が見られるのは日常利用によるものです。
- ・ 調査日のうち 11 月 27 日（休日）の利用が顕著なのは、陸上競技記録会の参加者がウォームアップのため、公園を何周も走行したことによるものです。

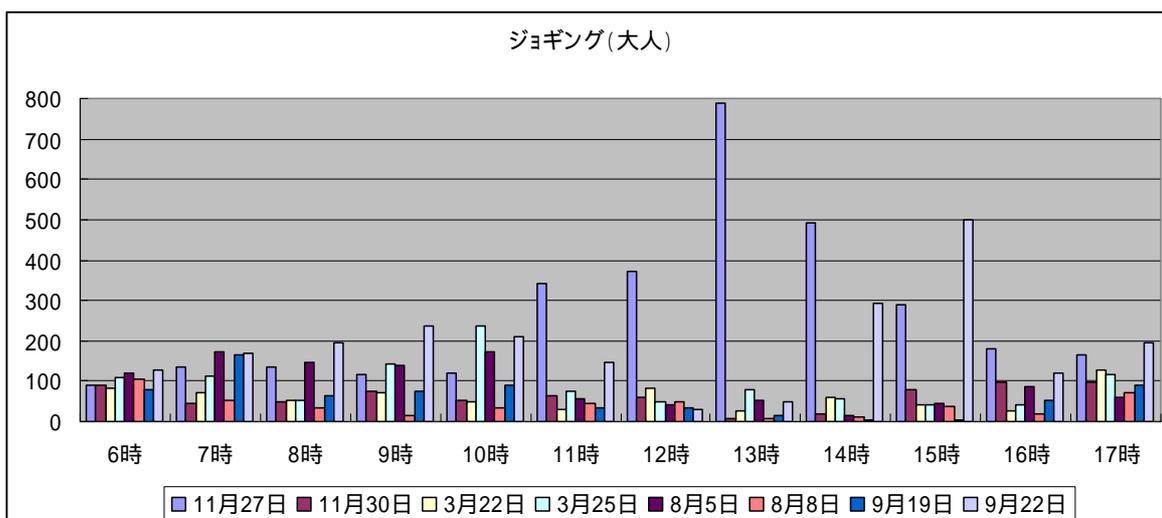


図 5-9 ジョギング利用者（大人）の調査日別・時間別利用者数

ジョギング利用者の時間別推移

- ・午前6時台は安定して100～150人の利用が見られます。周辺住民の日常的な利用に使用されていることが伺われます。
- ・11月27日（休日）の利用者が突出しているのは陸上競技記録会が開催（8:00～16:30）されていた影響によるものです。
- ・夏期は全体的にジョギング利用者の比率（10～15％）数量が減少しますが、とりわけ昼間の利用が著しく減少し、午前の利用の比率が高くなっています。

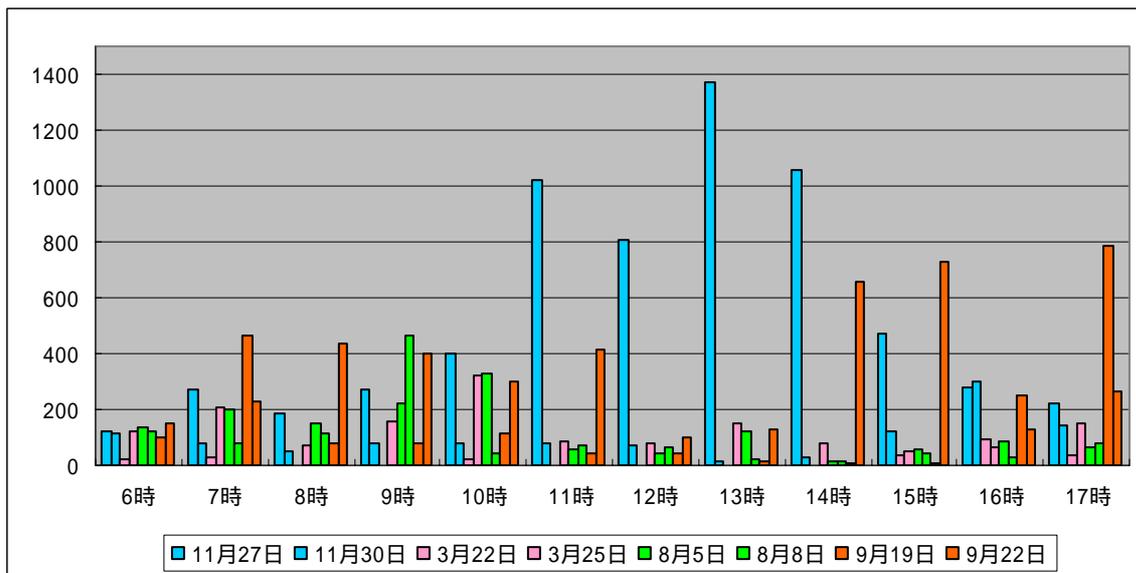


図 5-10 ジョギング利用者の時間別利用者数

ジョギング利用者の世代・男女別時間別推移

- ・男性利用者数が多く、中高生の一部（11時）のみで女性が多くなっています。

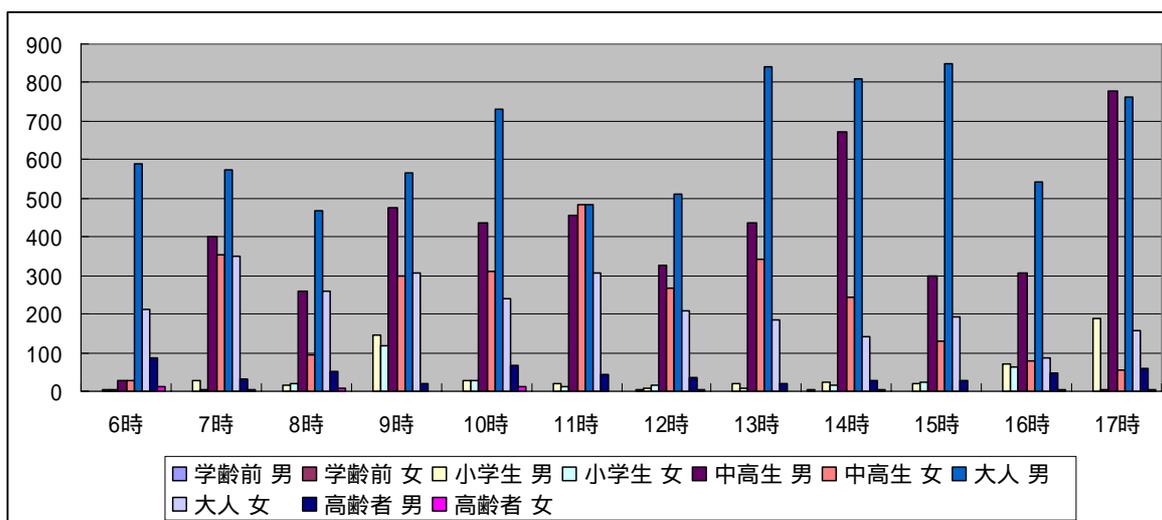


図 5-11 ジョギング利用者の世代・男女別利用者数

本公園では、「散歩・ウォーキング」利用者の割合が、平日、休日の別なく 20～45%と利用形態別に見ると 2 番目となっています。

運動施設間をつなぐ園路が、身近な健康運動の場となっていることがわかります。

世代別に見た散歩・ウォーキング利用者の時間別傾向

- ・世代別に見ると学齢前、小学生、中高生の利用者はごく少数であり、大人と高齢者の利用が大半を占めています。
- ・大人、高齢者ともに、6 時が最も多く、13 時が最も少ない利用となっています。全体的に午前の利用が午後よりも多くなっています。

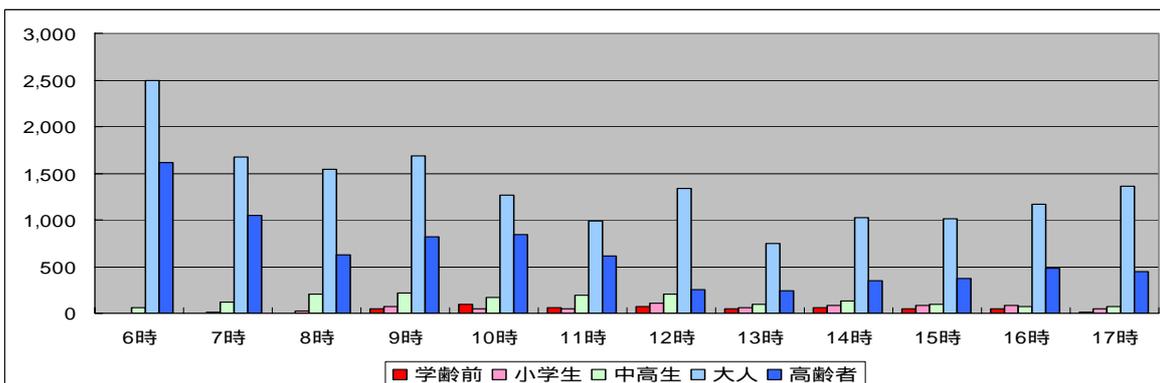


図 5-12 散歩・ウォーキング利用者の世代別時間別利用者数 (全調査日合計)

- ・利用者数の多い大人と高齢者に視点をあて調査日別にみると、大人は、平日よりも休日利用が多く、1 日を通しては午前中の利用が多い傾向が見られます。

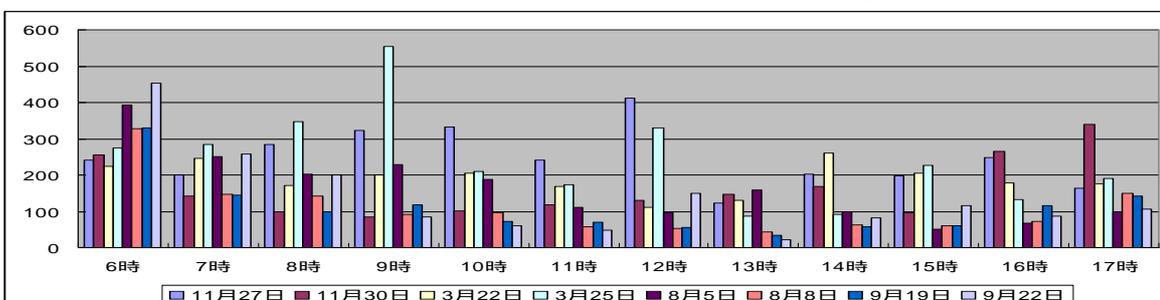


図 5-13 散歩・ウォーキング利用者 (大人) の調査日別・時間別利用者数

- ・高齢者は、平日・休日に関わりなく安定した利用があり、特に早朝利用が多く、休日昼間の混雑時を避けている傾向が見られます。

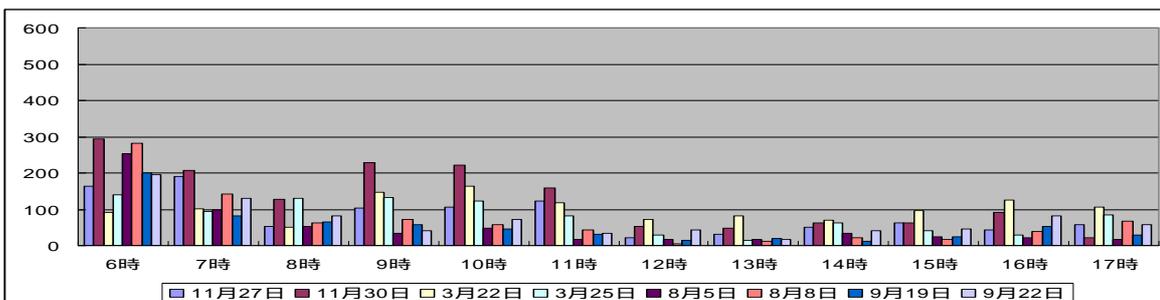


図 5-14 散歩・ウォーキング利用者 (高齢者) の調査日別・時間別利用者数

散歩・ウォーキング利用者の時間別推移

- ・季節を問わず 6 時台の利用が多く見られます。この時間帯は地域の人々が集まりラジオ体操を毎日行っていることも影響していると考えられます。
- ・全体的に午前中の利用が多いことがわかります。
- ・季節と時間との関係で顕著な点は、
 春期は平均して利用が見られ、とりわけ 8 時～9 時台の利用が多くなっています。
 夏期は午前の早い時間にピークがあり、昼 12 時～13 時は底を示し、夕方に少し利用が増える傾向を示しています。
 秋期は 6 時台が最も多く、昼にかけて徐々に減少し、午後（14 時以降）に平均的な利用が見られます。
 冬期は午前の時間帯に一定の利用が満遍なく見られ、昼食時間の 13 時に底を示します。

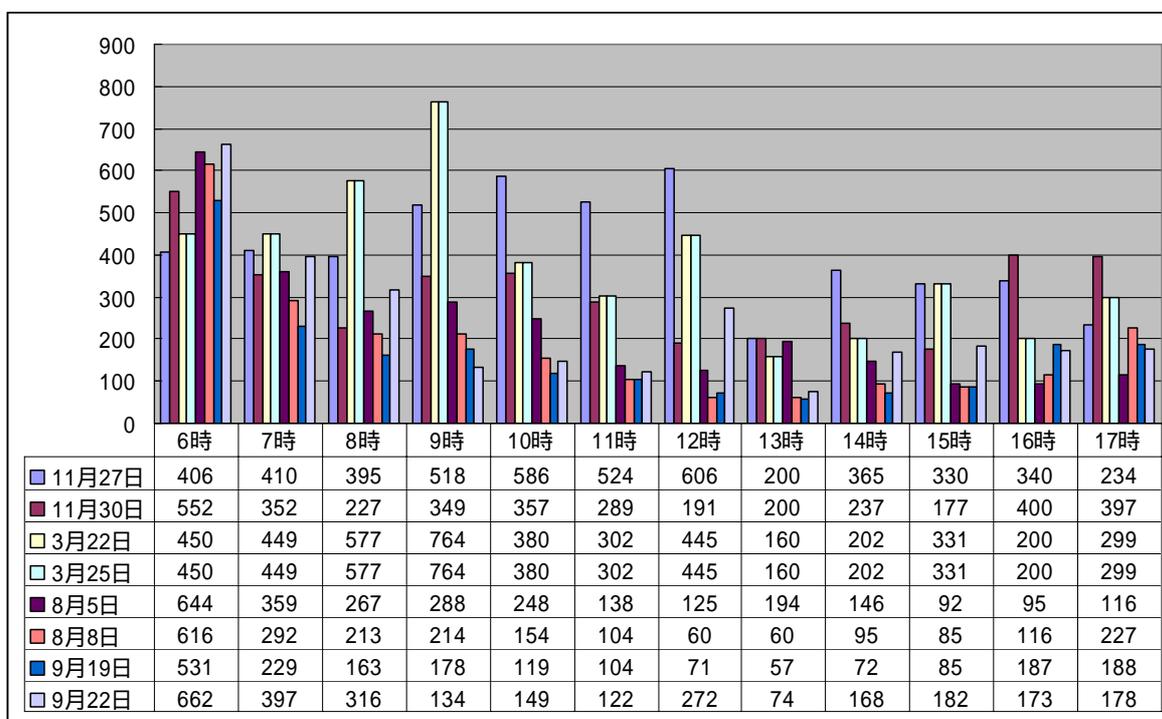


図 5-15 散歩・ウォーキング利用者の時間別利用者数

散歩・ウォーキング利用者の世代・男女別時間別推移

- ・全体集計で見ると早朝と夕方の利用者が多く、昼間時間帯の利用者が少ない凹型のグラフで表されます。
- ・世代別にはこれまでの分析からも学齢前、小学生、中高生の利用は少なく、大人と高齢者で占められています。
- ・男女比に視点をあててみると、男性利用者数が女性利用者数を上回っていることがわかります。

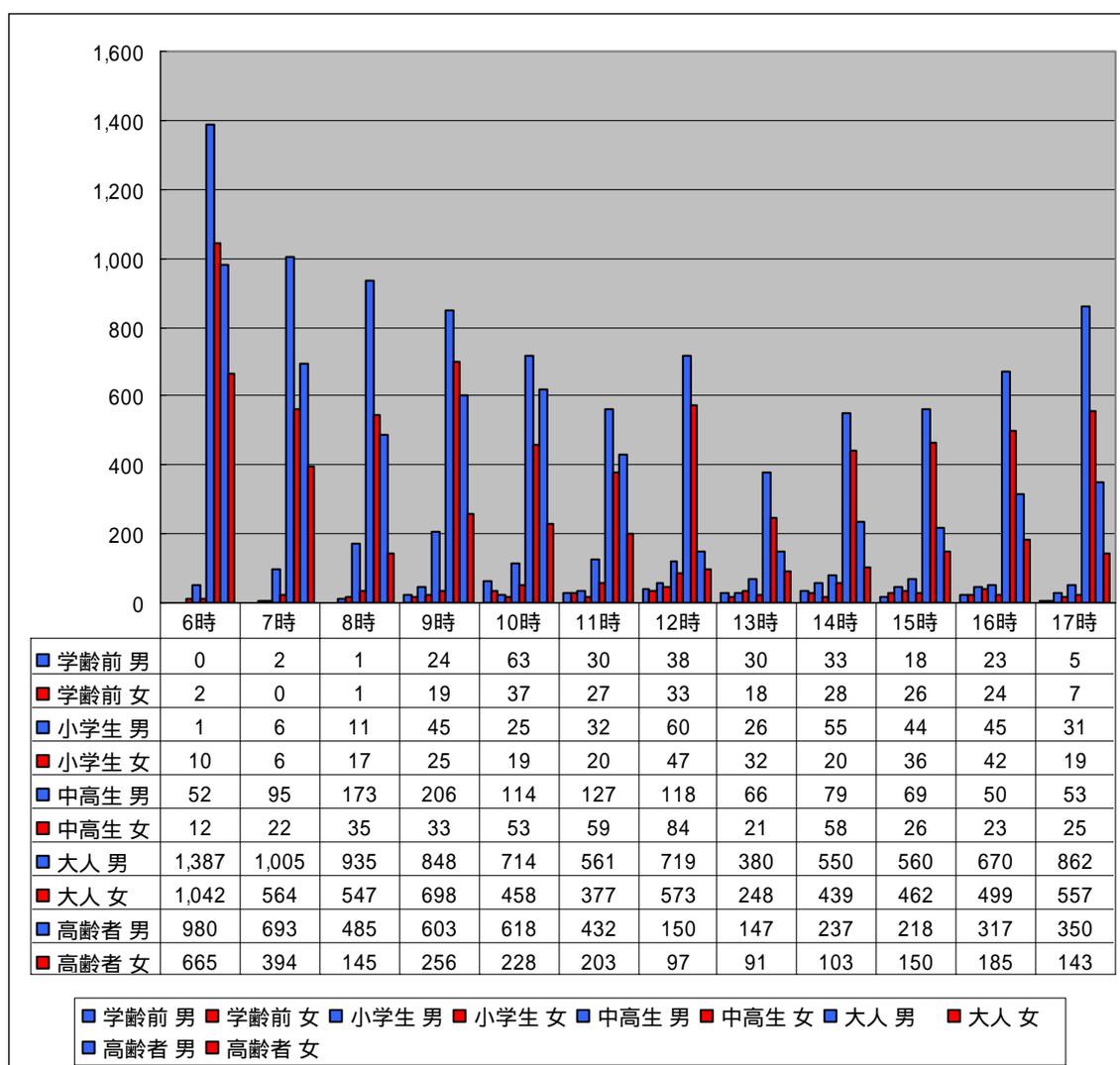


図 5-16 散歩・ウォーキング利用者の世代・男女別利用者数

公園の利用形態でよく見られるのは、他の調査(『公園は今』社団法人日本公園緑地協会、平成 15 年 6 月)でも明らかなように、公園の徒歩通過です。

本調査では「その他」利用として計上していますが、季節、平日、休日等により特徴的なことが伺えます。

その他利用者の時間別推移

- ・平日と休日で公園の利用目的が大きく異なり、平日は身近な公園利用や通勤、通学のための通過等の日常的な利用、休日は競技スポーツへの参加や観戦など非日常的な利用がされています。
- ・大人利用者の 12 時と 15 時に見られるピークはともに J リーグ公式戦開催による人の集中によるものです。

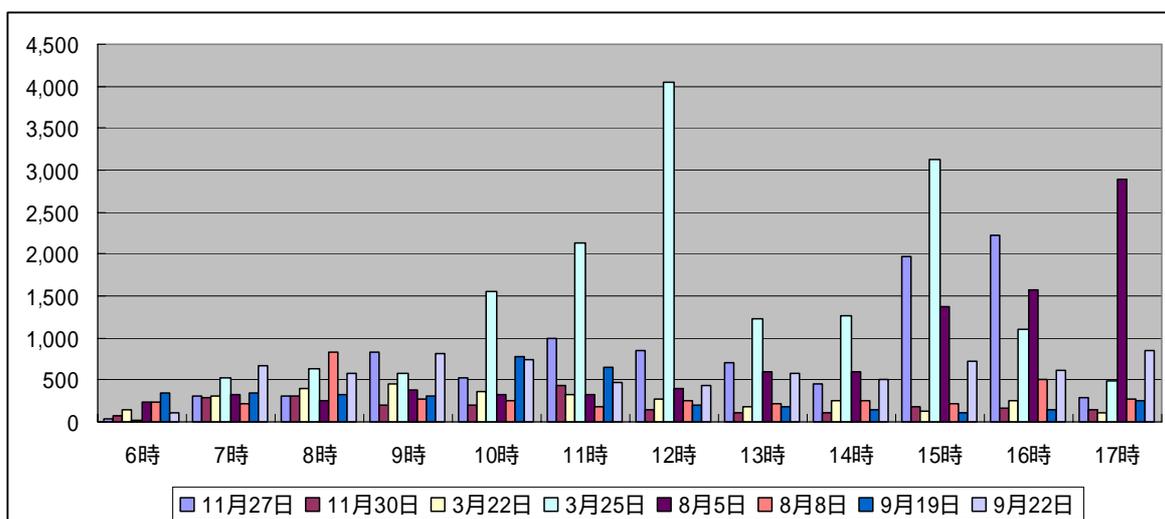


図 5-17 その他利用者の時間別利用者数

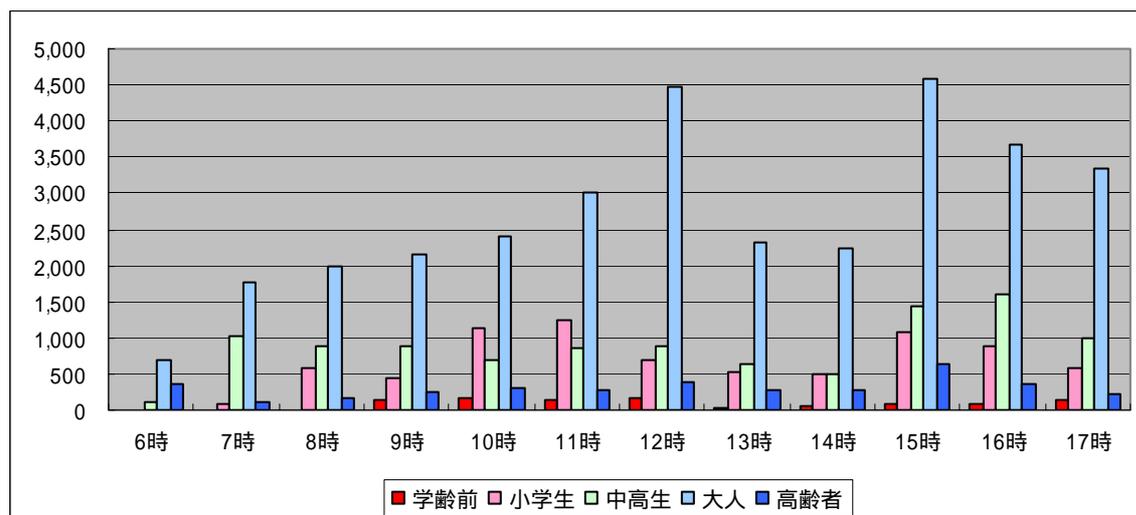


図 5-18 その他利用者の世代別利用者数

6.まとめ

スポーツには、爽快感や達成感など心身一体となった充足や楽しさ、感動や喜びをもたらすとともに、健康づくりや体力の向上に役立ち市民生活を豊かにする様々な意義があります。

長寿化の進展に伴う市民の健康志向の高まりなど、身近にスポーツができる環境の整備や充実が必要となっています。特に、ジョギングやウォーキングは、その運動効果が高く、高齢者でも手軽に取り組めるスポーツとして人気を集めています。また、近年のランニングブームの高まりは、補助競技場（陸上競技場兼球技場を含む）のトラックの個人利用の増加傾向（H21年度 19,955人 H23年度 24,406人）にもあらわれています。

このような市民のスポーツニーズに応えていくために、京都市内で最大のスポーツ施設である西京極総合運動公園を調査場所に設定し、ジョギングやウォーキングをはじめ、あらゆる目的で来園される方を対象として、曜日、時間帯、季節、男女別など細かなデータを収集いたしました。

今年度調査では、昨年度調査を補って四季を通じたデータを得ることができ、季節による特徴等を明らかにすることが出来ました。また、利用者数調査により、年間利用者数の推計を行うことができました。2,325千人の年間来園者数は京都市内の他施設・公園に比しても大きな数字であることが分かりました。四季を通じて休日と平日の利用形態に大きな差が見られましたが、このことは、本公園が京都市唯一の総合運動公園として、Jリーグの開催を始め各階層の陸上競技大会の開催など「見るスポーツ」と「するスポーツ」のメッカであることを示しています。また、平日は「散歩・ウォーキング」「ジョギング」の利用者が安定的に見られ、早朝から多くの市民に身近な公園として利用されていることが明らかになりましたが、休日においても固定的な利用として、割合は別にして一定の利用数が見られることは本公園が市民の日常生活に深く根ざしていることがよくわかります。利用者が本公園を、「安全に歩ける・走れる」と「緑が多い」を最も高く評価している（H23年度アンケート調査結果）ことから裏付けられます。

この調査結果は、「さまざまな運動のステージを提供する西京極総合運動公園」の姿を浮かび上がらせましたが、今後の市民のスポーツ施設の整備や充実を目指すための重要な基礎データとし、京都市や関係競技団体、また、地域の皆様とも連携をとりながら京都市民の健康増進に役立てたいと考えています。

財団法人 京都市体育協会